

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=21 N/mm² スランプ 18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

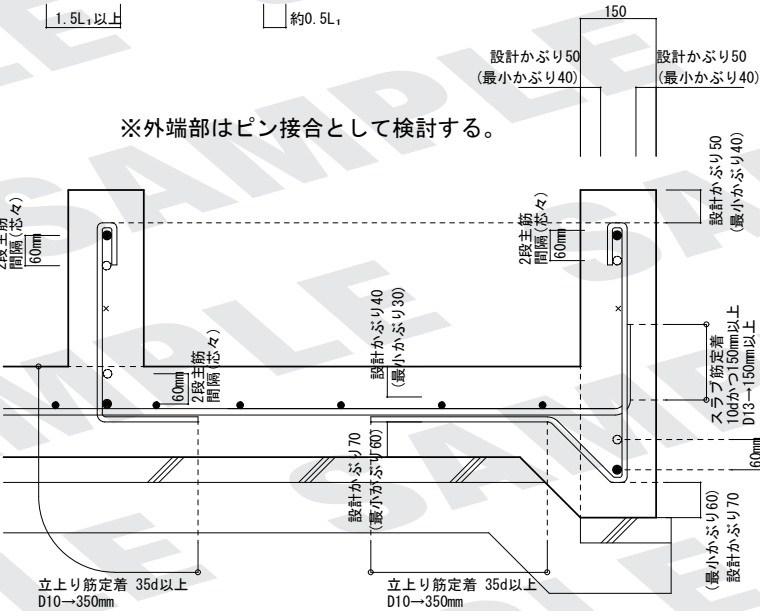
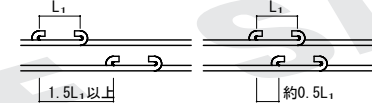
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

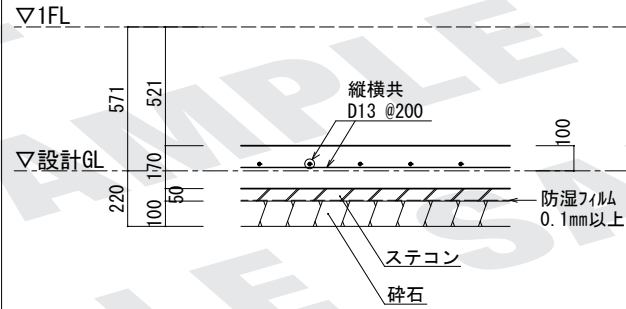
1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
重ね継手(下図のいずれかのようにする)



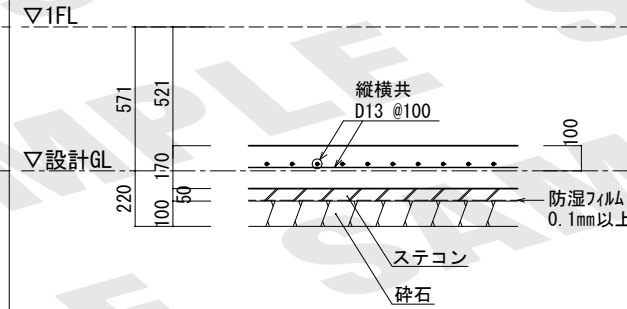
※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着を設けることとする。
認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。
認定ユニット鉄筋の規定を順守すること

- ※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。
床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。
※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。
※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。
- ① 不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、型枠・鉄筋を保持する台などを設ける
 - ② 根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる
 - ③ 根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水してしまうおそれがある場合は散水する。
 - ④ 規定のスラブ厚を確保する。

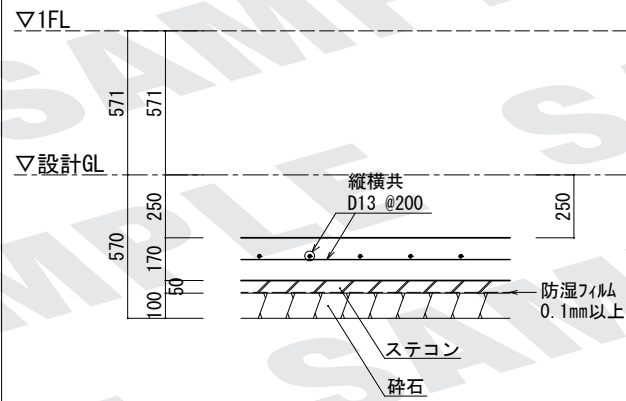
FS1



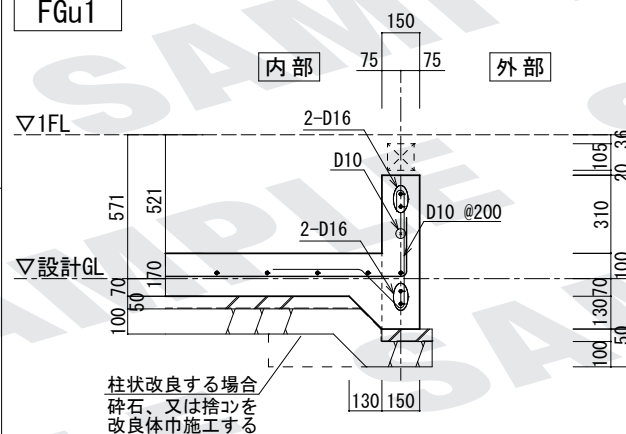
FS2



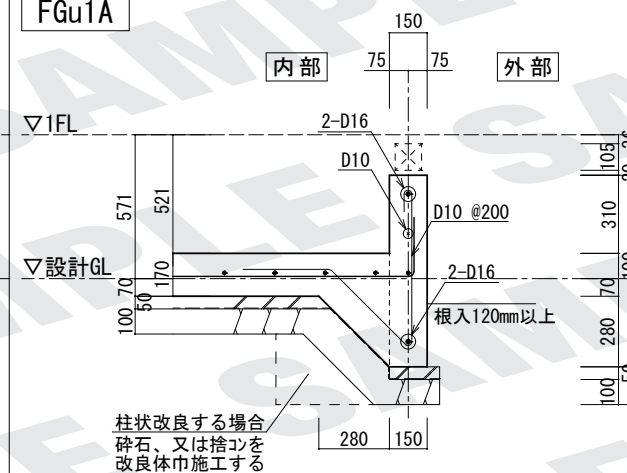
FS3



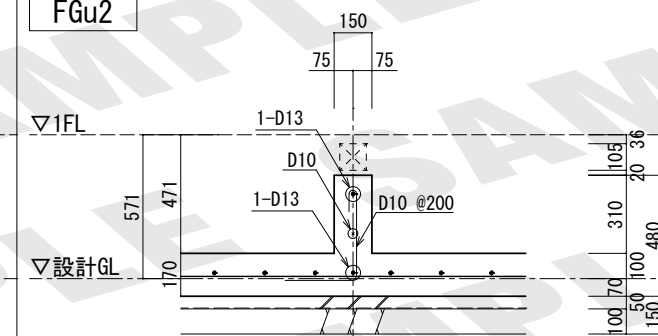
FGu1



FGu1A



FGu2



施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO
				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所
				訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号
				訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学
				訂正日 H	

PROJECT TITLE	SHEET NO
DRAWING TITLE	SCALE
基礎断面図	S=1/50
	S-07a

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=21 N/mm² スランプ 18 cm
鉄筋：D10~D16:SD295 A

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

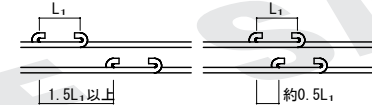
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

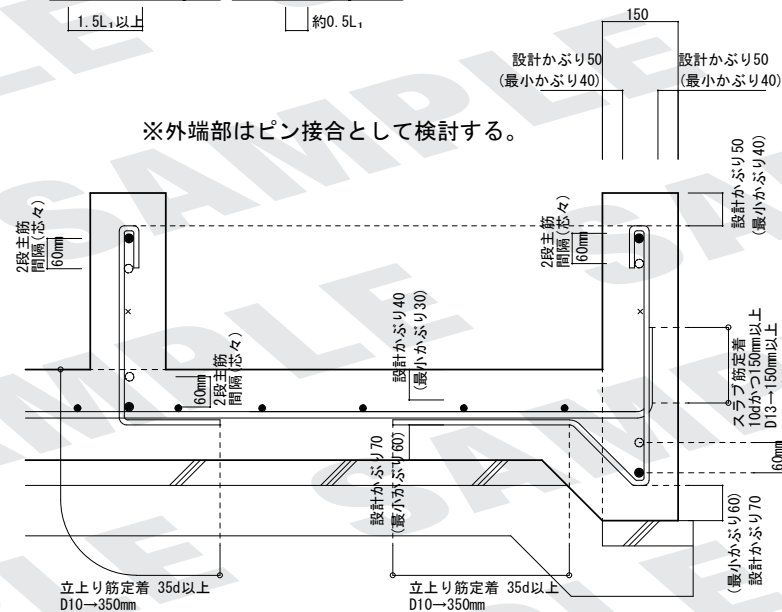
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする重ね継手(下図のいずれかのようにする)



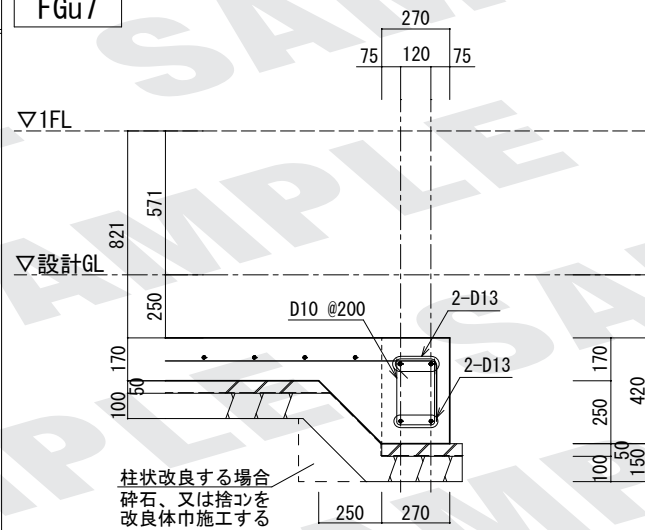
※外端部はピン接合として検討する。



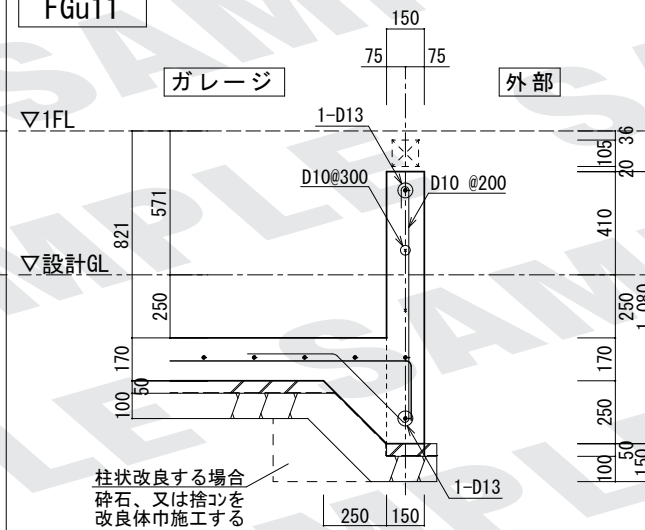
※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着を設けることとする。
認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。
認定ユニット鉄筋の規定を順守すること

- ※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。
床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。
※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。
※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。
- ① 不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、型枠・鉄筋を保持する台などを設ける
 - ② 根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる
 - ③ 根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水してしまうおそれがある場合は散水する。
 - ④ 規定のスラブ厚を確保する。

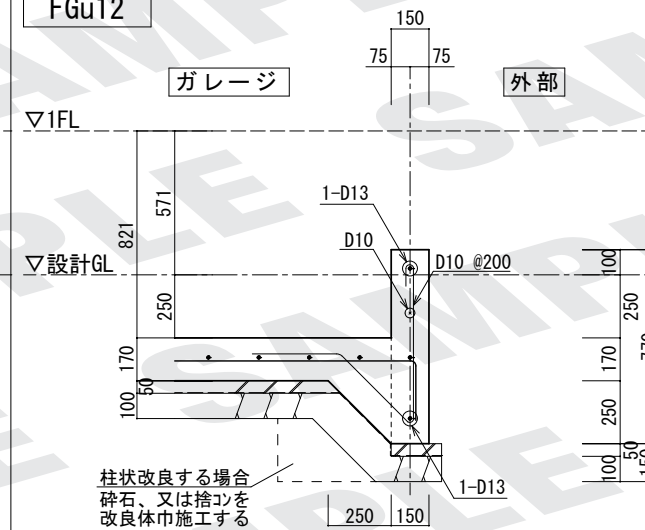
FGu7



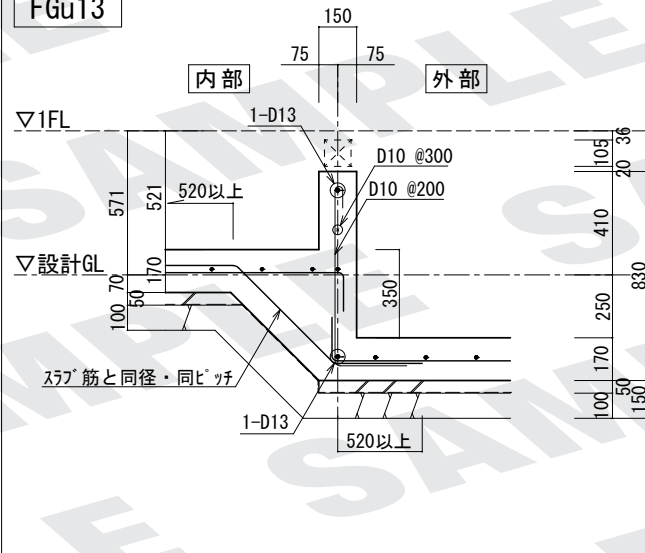
FGu11



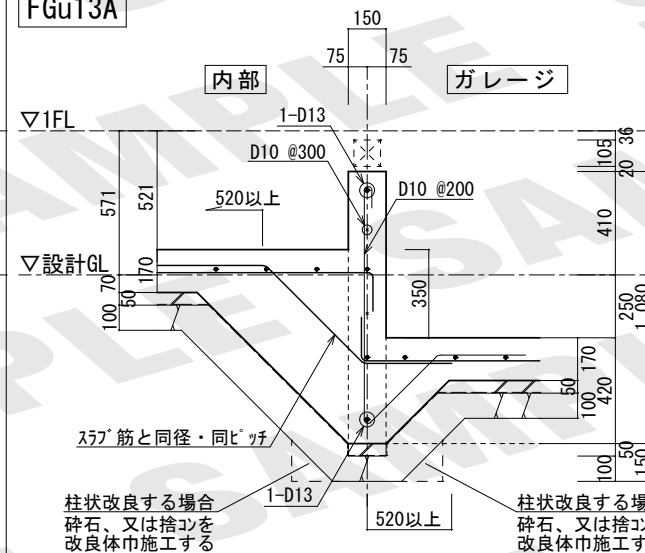
FGu12



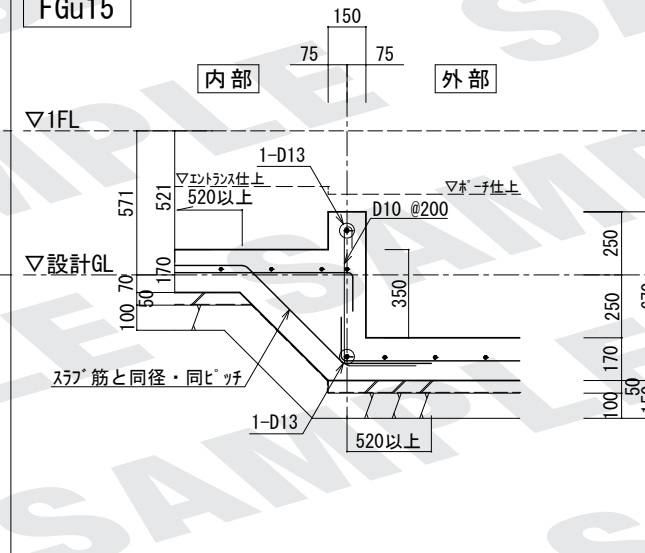
FGu13



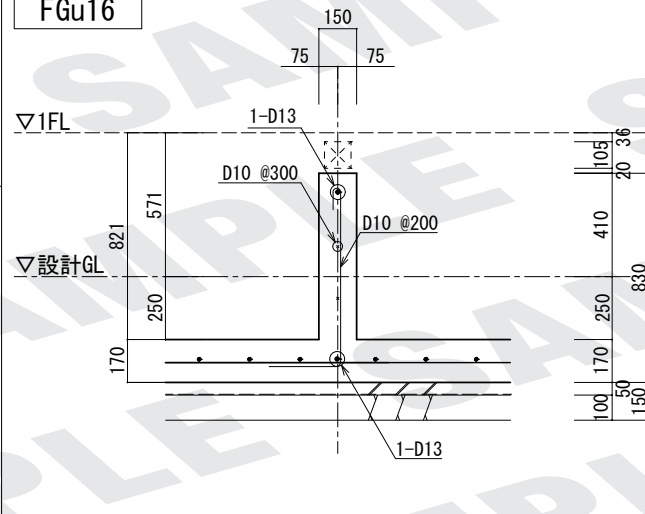
FGu13A



FGu15



FGu16



施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO
				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所
				訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号
				訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学
				訂正日 H	

PROJECT TITLE	SHEET NO
DRAWING TITLE	SCALE
基礎断面図	S=1/50
	S-07b

使用材料・強度

使用材料

コンクリート：Fc=21 N/mm² スランプ 18 cm

鉄筋：D10~D16:SD295 A

■ 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

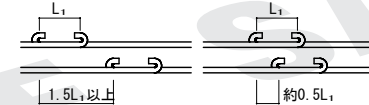
構造部分	最小かぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
土に接しない床スラブ・屋根スラブ・非耐力壁(屋外)	30	40
土に接する耐力壁・床スラブ・布基礎の立上り部分・基礎つなぎ梁	40	50
基礎 (捨コンクリート部分を除く)	60	70

■ 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

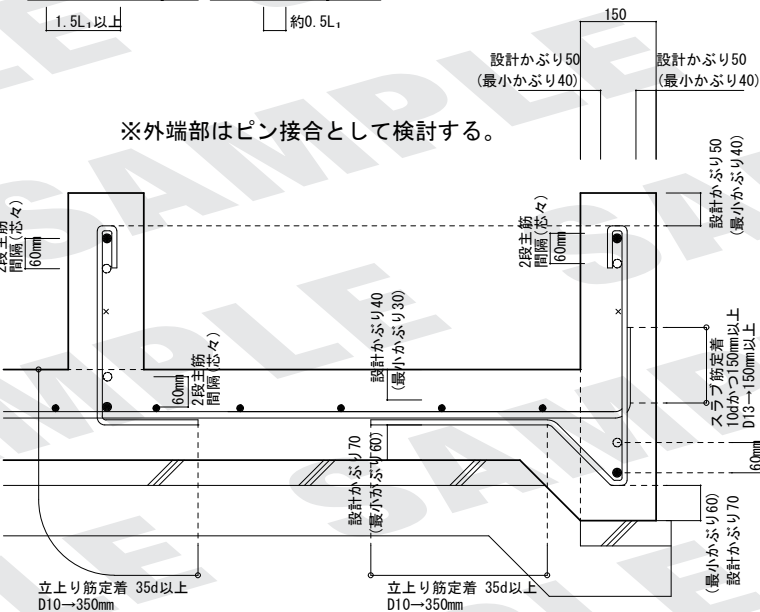
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ (L ₁)
		一般 (L ₂)	下端筋 (L ₃) 床・屋根スラブ	
SD295A	21	35d または 25d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき

継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする重ね継手(下図のいずれかのようにする)



※外端部はピン接合として検討する。



※現場組鉄筋の場合は、縦筋端部をフック付し、必要な定着を設けることとする。
認定ユニット鉄筋の場合は、縦筋端部のフックの省略が可能。
認定ユニット鉄筋の規定を順守すること

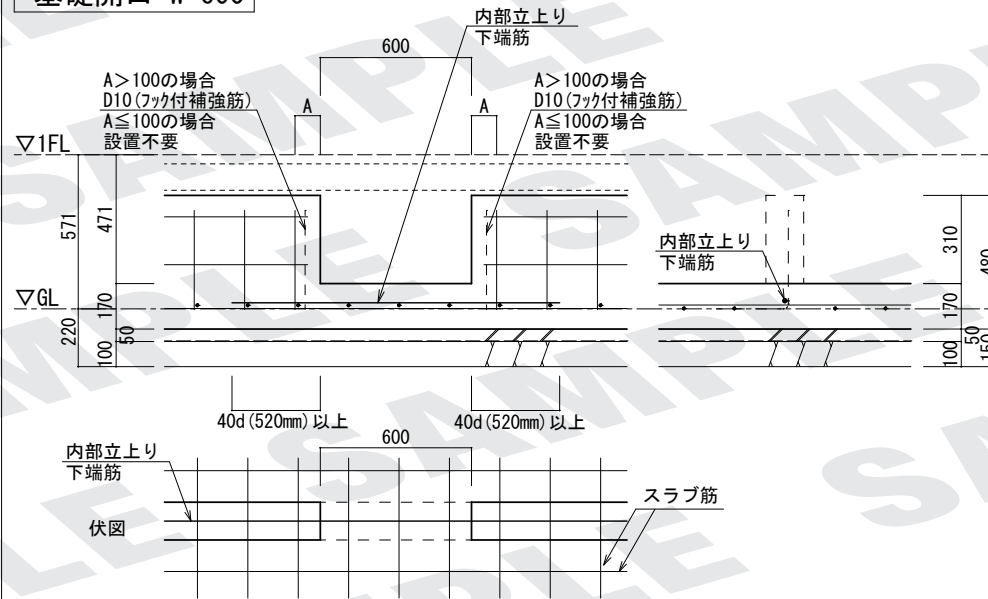
※床付面は地盤面を荒らさぬように注意すること。
床付面は既存状況により荒らされた場合、現場の状況により捨てコンクリート厚を増すこと。

※捨てコンクリート・砕石地業の厚さ・有無は施工者の判断による。

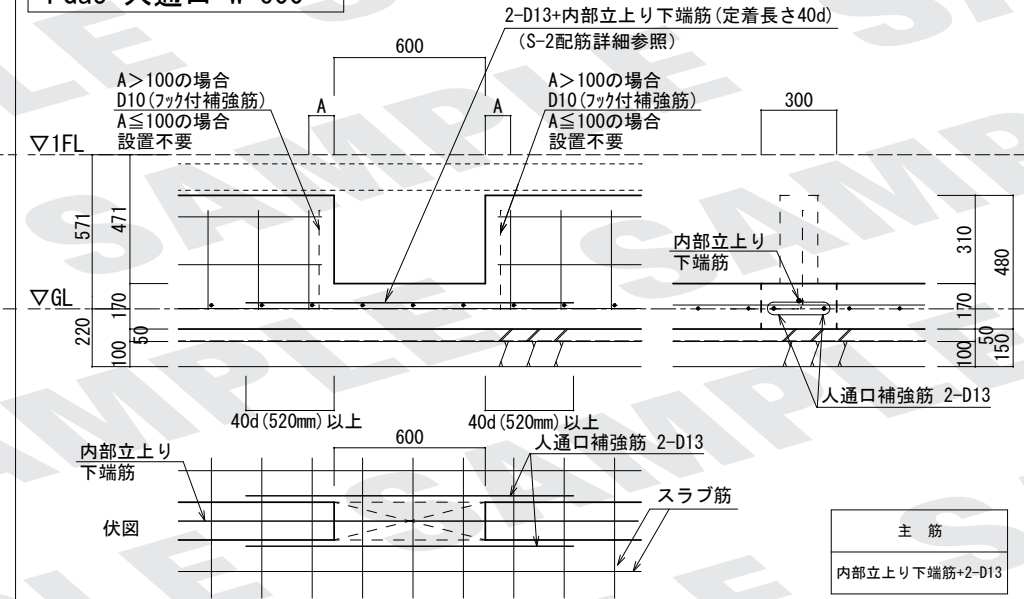
※捨てコンクリートを省略する場合、以下に注意すること。

- ① 不陸差による型枠・鉄筋の高さ位置を正しく決めるのが困難なため、型枠・鉄筋を保持する台などを設ける
- ② 根切り底面の安定化を図るため砂・砂利・砕石を十分に締め固め、表面を平滑に仕上げる
- ③ 根砂・砂利・砕石が乾燥しているときなど、コンクリートが急激に脱水されてしまうおそれがある場合は散水する。
- ④ 規定のスラブ厚を確保する。

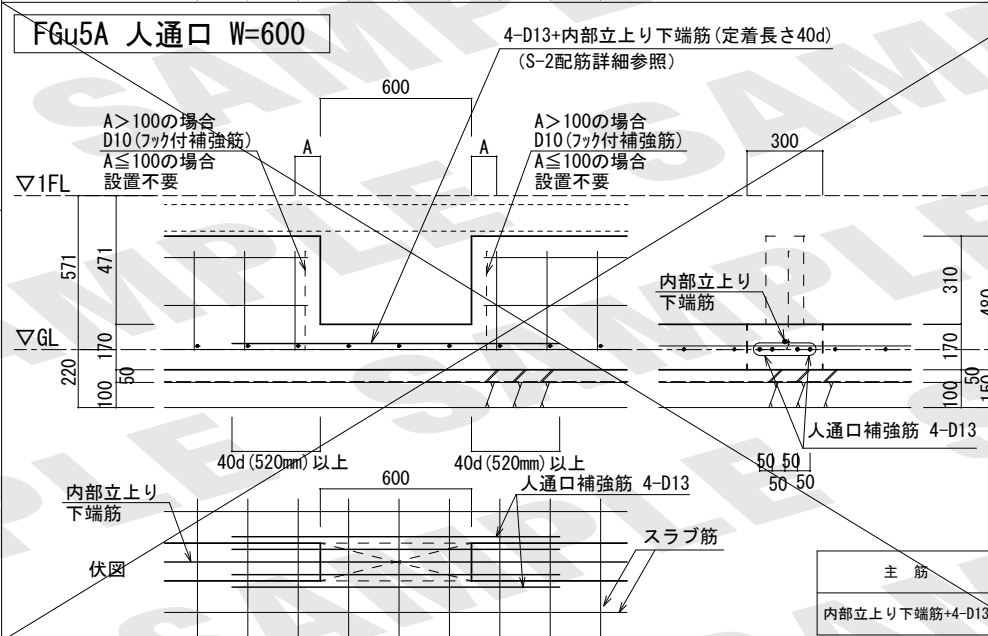
基礎開口 W=600



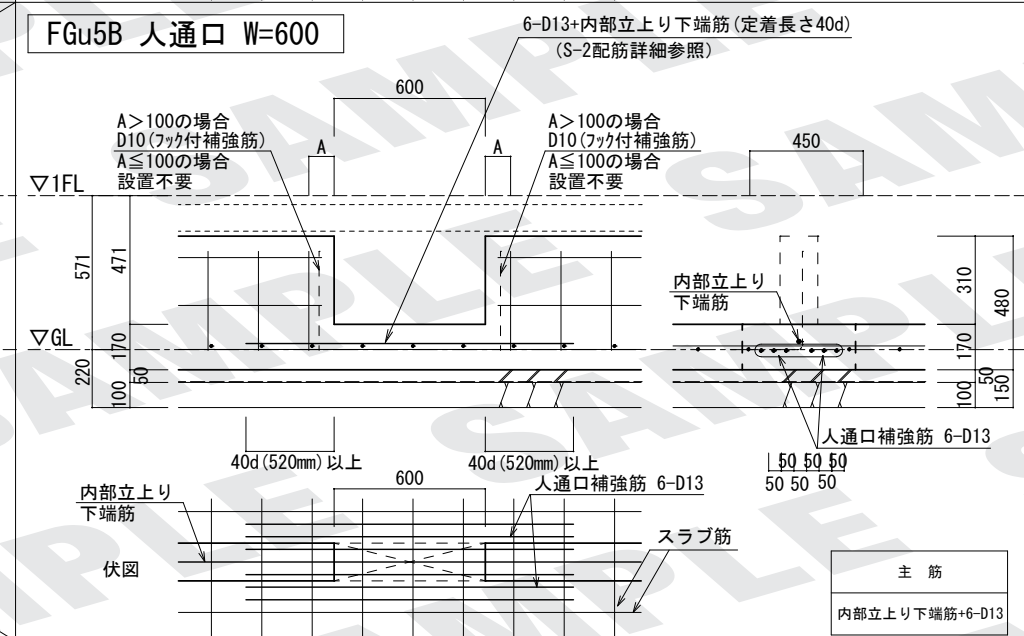
FGu5 人通口 W=600



FGu5A 人通口 W=600



FGu5B 人通口 W=600



施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	基礎断面図	S-07c
				訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号		
				訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学		
				訂正日 H			
DRAWING BY :					DRAWING TITLE	SCALE	
DATE :						S=1/50	

土台伏図凡例

※特記無き限り下記による

記号	種類	
——	土台(注入) (105×105)	(松・米松)KD無等級材 (唐松、国産赤松)集成 E95-F315 同一等級
----	大引(注入) (90×90)	(松・米松)KD無等級材 (唐松、国産赤松)集成 E95-F315 同一等級
□	鋼製束	使用基準による
■	管柱 (105×105)	(WW、唐松、RW、松、エゾマツ)集成 E95-F315 同一等級 米松集成 E135-F405 同一等級
特記なき柱のホゾ寸法は 9.0cm×3.0cm以下とする。		
	床板(1階)	構造用合板 t=24 (釘打ち N75@150以下)
※GLからの高さが1m以内の外壁の軸組、木質系の下地材は現場にて防腐・防蟻処理を行う ※部材断面・材料強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する		

柱脚・柱頭金物種類 (在来工法)

※下記耐力と同等以上の金物も使用可能

符号	種類	耐力(KN)	備考
CP	告示1460号表3(ろ)	3.4	
VP	告示1460号表3(は)	5.1	
HD10	告示1460号表3(へ)	10.0	M167か直付けではないプレート想定 1階柱脚金物は土台が先行破壊する為6.5MNで設計
HD20	告示1460号表3(ち)	20.0	性能試験適合品 枠材30mm対応品
HD25	告示1460号表3(り)	25.0	性能試験適合品 枠材30mm対応品
HD35	性能試験適合品	35.0	M167の埋め込み長さを要確認 Zマーカー品は耐力25kN以下を想定
OC20	オメガコーナー20	21.7	榊タナカ(性能試験適合品)

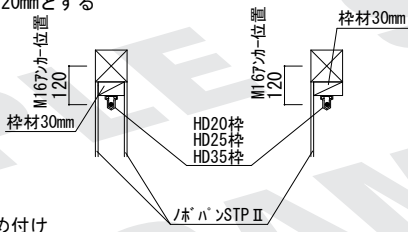
※特記なき柱頭・柱脚には CPを取付けること

耐力壁凡例

記号	倍率	耐力壁の種類	
△	2.0	筋違(シングル) 45×90	柱頭 △ 柱脚
△	4.0	筋違(タスキ) 45×90	
2.9	2.9	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁(壁勝) (FRM-0177)	
3.0	3.0	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁(床勝) (FRM-0242)	
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁(壁勝/床勝共) [入隅受材使用]	
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 受材真壁(壁勝/床勝共) (FRM-0179) ※床勝の場合はW910のみ有効	
※novopanSTP II の釘はN50又はCN50とし、外周@100mm、内周@200mmとする。 ※併用する場合は、上記倍率を加算する。 ※一般壁(非耐力壁)の釘は 外周@200、内周@300とする			
※金物を同等以上の金物に変更するときは基礎伏図のM167か位置を確認すること。 ※金物は仕様箇所によって床合板仕様・枠材仕様品を使い分ける。 ※コーナプレート系の金物は枠材の上には施工しないこと。実験等で安全を確認したものを除く。 取りつかない場合は、プレート系の金物若しくはHD20で対応すること ※柱脚のホゾの金物を枠材仕様にする時はM16の離れ寸法を要確認。			

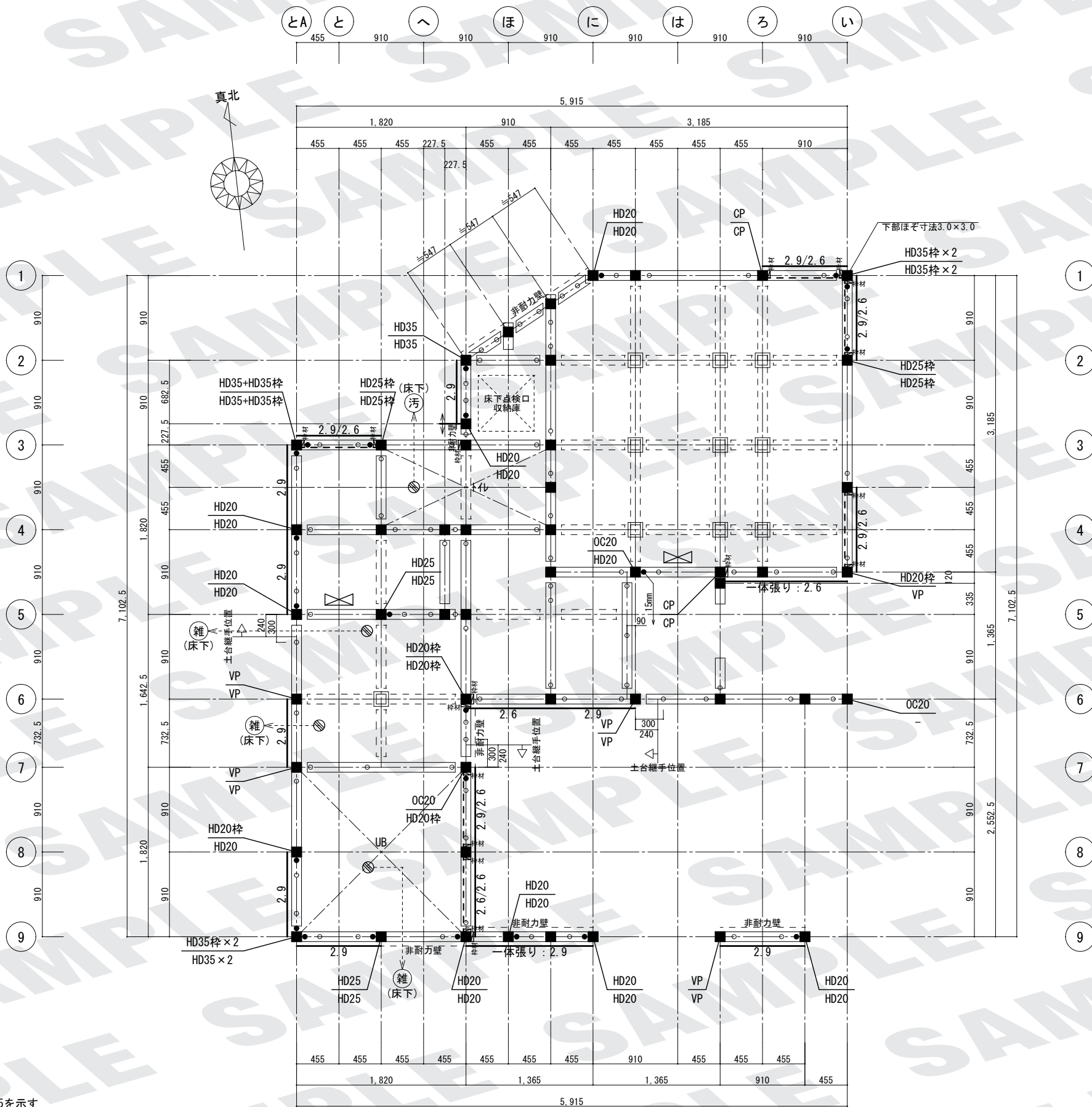
ノボパン真壁納まり

枠材は厚さ30mmの材を使用する事
M16アンカーの位置は柱芯から120mmとする



枠材はN75釘@100千鳥で柱に留め付け

□: 枠材 30×105を示す
□: 枠材 30×96を示す(もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す



DRAWING BY :	施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
	DATE :				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	DRAWING TITLE	
					訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号		SCALE
					訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学	S=1/50	
					訂正日 H			土台伏図

2階床伏図凡例

※特記無き限り下記による

記号	種類	種類
■	管柱 (105×105)	(杉集成 E65-F255 トドマツ集成 E85-F300) 同一等級 (WW・唐松・RW・松・エゾマツ)集成 E95-F315 同一等級 米松集成 E135-F405 トドマツ集成 E75-F270 同一等級
		特記なき柱のホゾ寸法は 9.0cm×3.0cm以下とする。
×	下階の柱	
105×()	梁	特記なき梁は 105×150とする 樹種: レッドウッド集成材E105-F300 対称異等級 ※ DF: 米松集成E120-F330 対称異等級 ※ 米松: 米松KD 無等級材
□	甲乙材 (90×90)	(杉、米松、米桐、WW、松)無等級材 (RW集成 E95-F285 WW集成 E95-F315) 同一等級 (杉集成E65-F225 RW集成 E105-F300)対称異等級
	床板 (2階)	構造用合板 t=30 (釘打ち N75@150以下) ※UB設置範囲の構造用合板はt=30とする

柱脚・柱頭金物種類 (在来工法)

※下記耐力と同等以上の金物も使用可能

符号	種類	耐力 (KN)	備考
CP	告示1460号表3 (ろ)	3.4	
VP	告示1460号表3 (は)	5.1	
HD10	告示1460号表3 (へ)	10.0	M167か直付けではないプレート想定 1階柱脚金物は土台が先行破壊する為に7.0KNで設計
HD20	告示1460号表3 (ち)	20.0	
HD20 枠	性能試験適合品 枠材30mm対応品		
HD25	告示1460号表3 (り)	25.0	
HD25 枠	性能試験適合品 枠材30mm対応品		
HD35	性能試験適合品	35.0	M167か-の埋め込み長さを要確認
HD35 枠	性能試験適合品 枠材30mm対応品		Zマ-品は耐力25kN以下を想定
OC20	オメガコーナー20	21.7	榊タナカ (性能試験適合品)

※特記なき柱頭・柱脚には CPを取付けること

耐力壁凡例

記号	倍率	耐力壁の種類	柱頭	柱脚
△	2.0	筋違 (シングル) 45×90		柱頭
△	4.0	筋違 (タスキ) 45×90		柱脚
2.9	2.9	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (壁勝) (FRM-0177)		
3.0	3.0	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (床勝) (FRM-0242)		
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (壁勝/床勝共) [入隅受材使用]		
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 受材真壁 (壁勝/床勝共) (FRM-0179) ※床勝の場合はW910のみ有効		

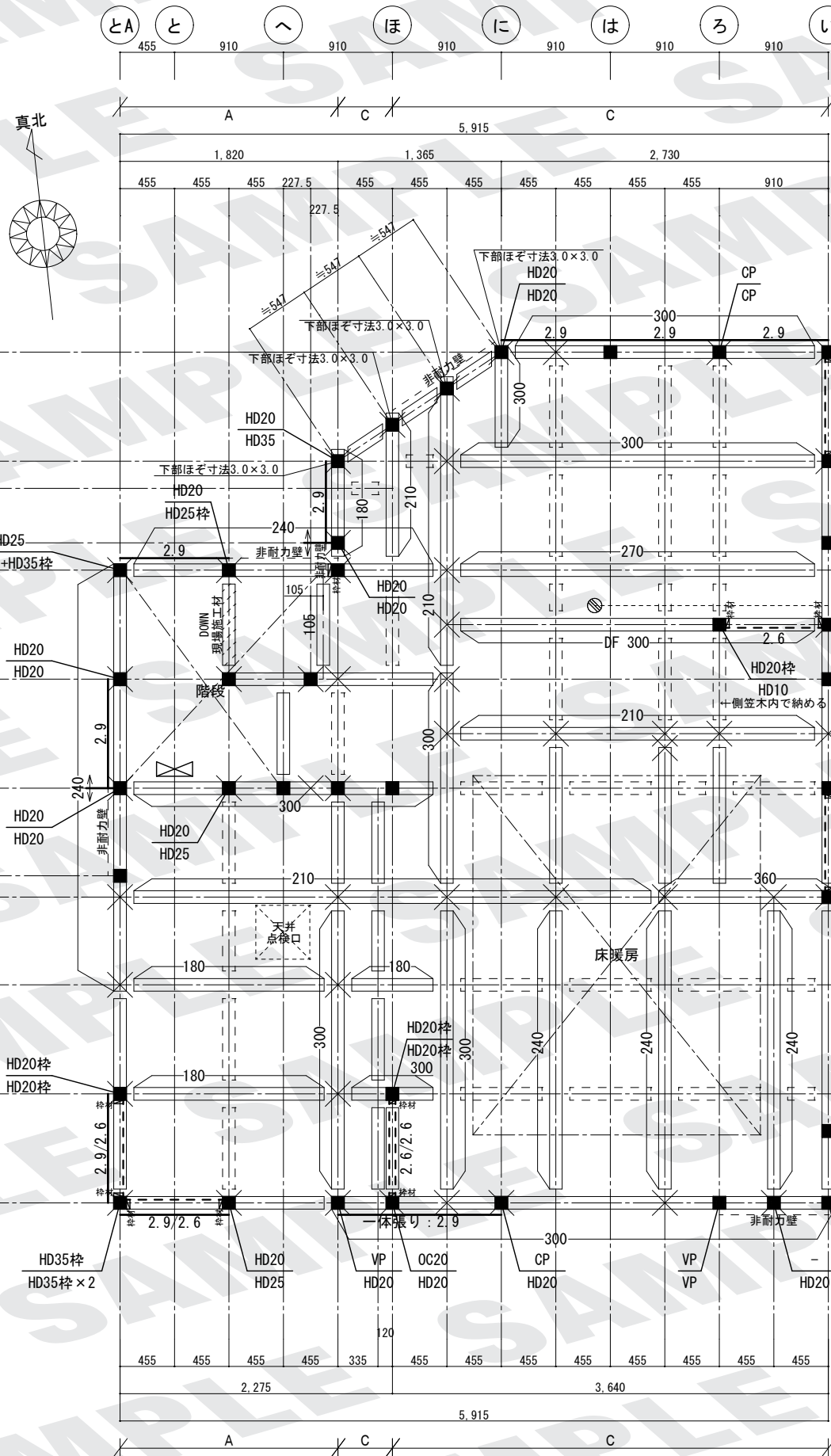
※novopanSTP II の釘はN50又はCN50とし、外周@100mm、内周@200mmとする。
※併用する場合は、上記倍率を加算する。
※一般壁 (非耐力壁) の釘は 外周@200、内周@300とする

※金物を同等以上の金物に変更するときは基礎伏図のM167か-位置を確認すること。
※金物は仕様箇所によって床合板仕様・枠材仕様品を使い分ける。
※コーナープレート系の金物は枠材の上には施工しないこと。実験等で安全を確認したものを除く。
※取付かない場合は、プレート系の金物若しくはHD20で対応すること
※柱脚のホルダ-金物を枠材仕様にする時はM16の離れ寸法を要確認。

横架材端部接合物	※下記耐力と同等以上の金物も使用可能	引張耐力
(A)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、又は、短冊金物	10.0
(B)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2	15.0
(C)	ホームプレート (同等品) ×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×2	20.0
(D)	ホームプレート (同等品) ×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×3	25.0
(Z)	梁受け金物もしくは上部: 大入れ、下部: 蟻掛け加工+羽子板ボルト	

※特記無き限り (A)

※筋交いの樹種は桐 無等級材以上の基準強度を要する
※筋交いプレートの取り付く部材 (土台、柱、梁、筋交い) の樹種が、同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種が確認すること (特に筋交いに米松、桐以外の材種を用いる場合は注意すること)
※筋交い及び筋交いプレートは柱に取り付ける (枠材に取り付けない)
※外周部の主要な出隅部は、HD20以上を取りつける (計算結果に拘らず)
※ () 内の数値は2階床梁上端からの寸法を示す



特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板30mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	DRAWING TITLE 2階床伏図	SCALE S=1/50
				訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号		
				訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学		
				訂正日 H			

DRAWING BY :
DATE :

S-10

3階床伏図凡例

※特記無き限り下記による

記号	種類	種類
■	管柱 (105×105)	(杉集成 E65-F255 トドマツ集成 E85-F300) 同一等級 (WW・唐松・RW・松・エゾマツ)集成 E95-F315 同一等級 米松集成 E135-F405 トドマツ集成 E75-F270 同一等級
×	下階の柱	特記なき柱のホゾ寸法は 9.0cm×3.0cm以下とする。
105×()	梁	特記なき梁は 105×150とする 樹種: レッドウッド集成材E105-F300 対称異等級 ※ DF:米松集成E120-F330 対称異等級 ※ 米松:米松KD 無等級材
□	甲乙材 (90×90)	(杉、米松、米桐、WW、松)無等級材 (RW集成 E95-F285 WW集成 E95-F315) 同一等級 (杉集成E65-F225 RW集成 E105-F300)対称異等級
	床板 (3階)	構造用合板 t=24 (釘打ち N75@150以下) ※UB設置範囲の構造用合板はt=30とする

柱脚・柱頭金物種類 (在来工法)

※下記耐力と同等以上の金物も使用可能

符号	種類	耐力 (KN)	備考
CP	告示1460号表3 (ろ)	3.4	
VP	告示1460号表3 (は)	5.1	
HD10	告示1460号表3 (へ)	10.0	M167か直付けではないプレート想定 1階柱脚金物は土台が先行破壊する為に7.0KNで設計
HD20	告示1460号表3 (ち)	20.0	
HD20 枠	性能試験適合品 枠材30mm対応品		
HD25	告示1460号表3 (り)	25.0	
HD25 枠	性能試験適合品 枠材30mm対応品		
HD35	性能試験適合品	35.0	M167か-の埋め込み長さを要確認
HD35 枠	性能試験適合品 枠材30mm対応品		Zマ-ク品は耐力25kN以下を想定
OC20	オメガコーナー-20	21.7	榊タナカ (性能試験適合品)

※特記なき柱頭・柱脚には CPを取付けること

耐力壁凡例

記号	倍率	耐力壁の種類	柱頭	柱脚
△	2.0	筋違 (シングル) 45×90		柱頭
△	4.0	筋違 (タスキ) 45×90		柱脚
2.9	2.9	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (壁勝) (FRM-0177)		
3.0	3.0	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (床勝) (FRM-0242)		
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁 (壁勝/床勝共) [入隅受材使用]		
2.6	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 受材真壁 (壁勝/床勝共) (FRM-0179) ※床勝の場合はW910のみ有効		

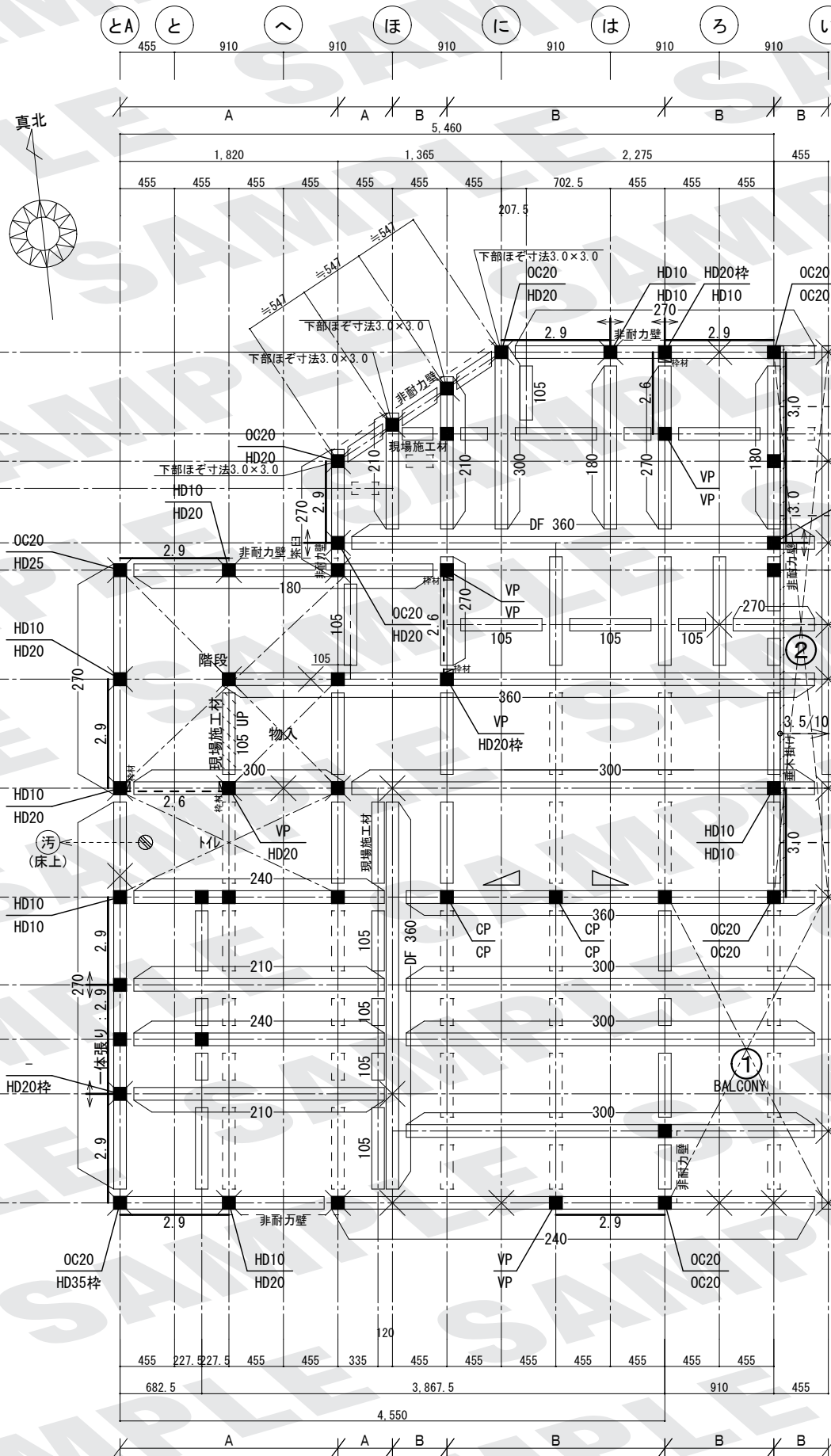
※novopanSTP II の釘はN50又はCN50とし、外周@100mm、内周@200mmとする。
※併用する場合は、上記倍率を加算する。
※一般壁 (非耐力壁) の釘は 外周は@200、内周@300とする

※金物を同等以上の金物に変更するときは基礎伏図のM167か-位置を確認すること。
※金物は仕様箇所によって床合板仕様・枠材仕様品を使い分ける。
※コーナプレート系の金物は枠材の上には施工しないこと。実験等で安全を確認したものを除く。
※取付かない場合は、プレート系の金物若しくはHD20で対応すること
※柱脚のボルトの金物を枠材仕様にする時はM16の離れ寸法を要確認。

横架材端部接合物	※下記耐力と同等以上の金物も使用可能	引張耐力
(A)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、又は、短冊金物	10.0
(B)	腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2	15.0
(C)	ホームプレート (同等品) ×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×2	20.0
(D)	ホームプレート (同等品) ×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×3	25.0
(Z)	梁受け金物もしくは上部:大入れ、下部:蟻掛け加工+羽子板ボルト	

※特記無き限り (A)

※筋交いの樹種は桐 無等級材以上の基準強度を要する
※筋交いプレートの取り付け部材 (土台、柱、梁、筋交い) の樹種が、同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種が確認すること (特に筋交いに米松、桐以外の材種を用いる場合は注意すること)
※筋交い及び筋交いプレートは柱に取り付ける (枠材に取り付けない)
※外周部の主要な出隅部は、HD20以上を取りつける (計算結果に拘らず)
※ () 内の数値は3階床梁上端からの寸法を示す



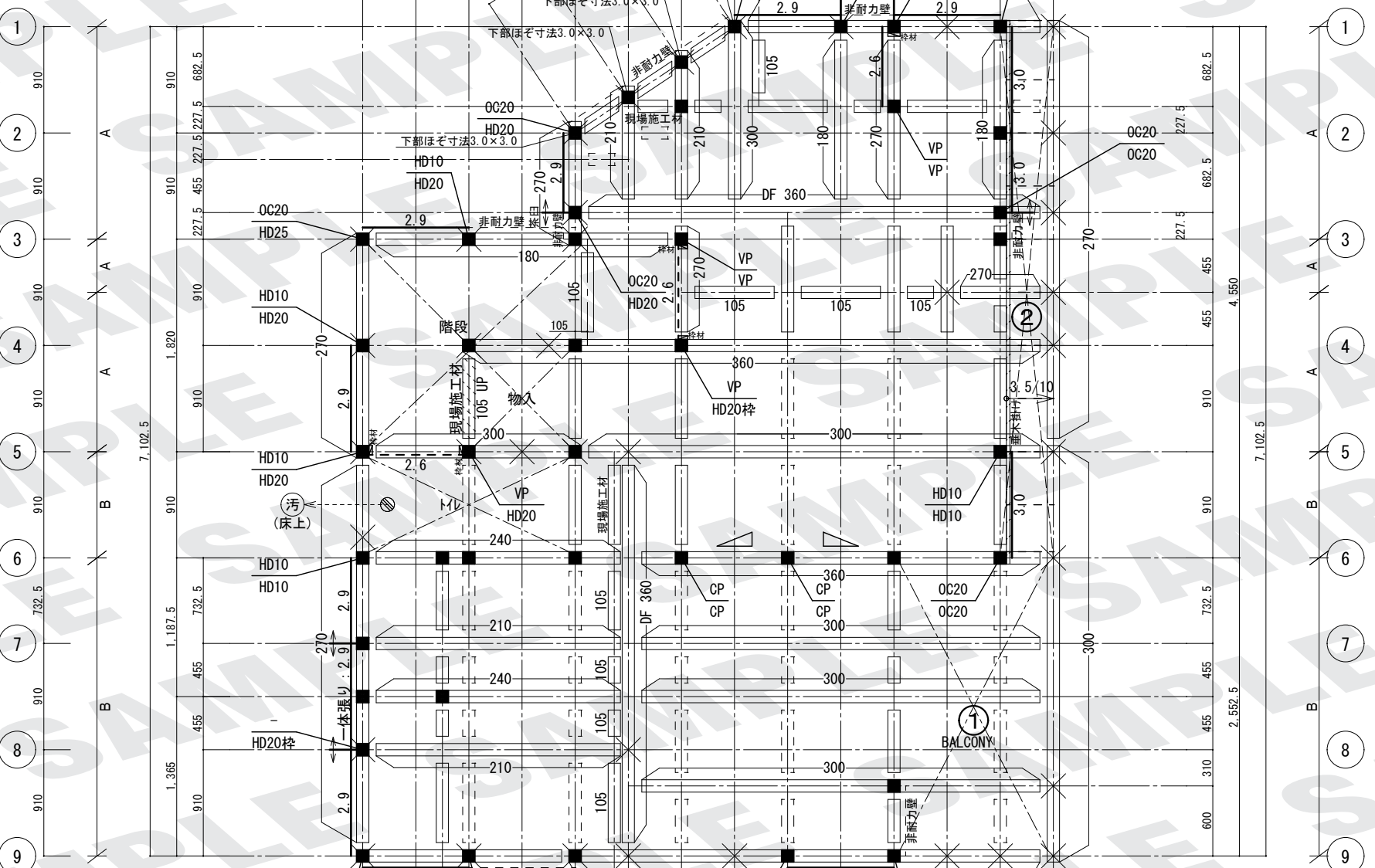
□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする



□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする
※ 階段部は床剪断耐力を0とする

□: 枠材 30×105を示す
■: 枠材 30×96を示す (もしくは30×95)
□: 枠材 30×87を示す

特記なき箇所: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

①: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
※ 特記なき箇所と同じとする

②: 床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m
3.5寸勾配 (転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※屋根部のせん断耐力は構面巾600未満の為に計算上は評価しない

小屋伏図凡例

※特記無き限り下記による

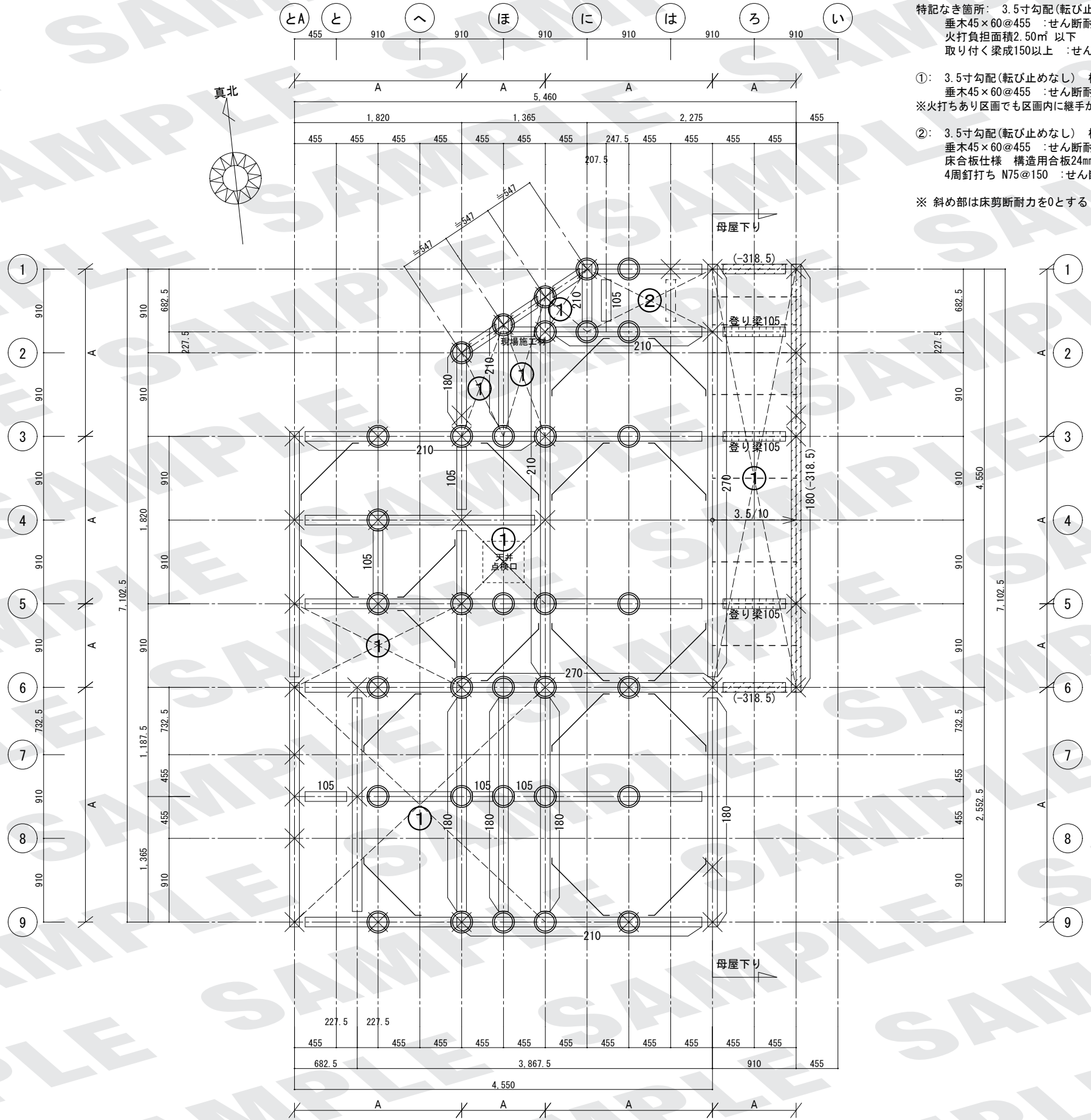
記号	種類	
■	管柱 (PH階) (105×105)	(杉集成 E65-F255 トドマツ集成 E85-F300) 同一等級 (W・唐松・RW・松・エゾマツ)集成 E95-F315 同一等級 米松集成 E135-F405 トドマツ集成 E75-F270 同一等級 特記なき柱のホゾ寸法は 9.0cm×3.0cm以下とする。
×	下階の柱	
105×()	梁	特記なき梁は 105×150とする 樹種: レッドウッド集成材E105-F300 対称異等級 ※ DF: 米松集成材E120-F330 対称異等級 ※ 米松: 米松KD 無等級材
---	甲乙材 (90×90)	(杉、米松、米桐、W、松) 無等級材 (RW集成 E95-F285 WW集成 E95-F315) 同一等級 (杉集成 E65-F225 RW集成 E105-F300) 対称異等級
○	小屋束 (105×105)	(杉、米松、米桐、W、松) 無等級材 (RW集成 E95-F285 WW集成 E95-F315) 同一等級 (杉集成 E65-F225 RW集成 E105-F300) 対称異等級
◎	小屋束 (90×90)	(杉、米松、米桐、W、松) 無等級材 (RW集成 E95-F285 WW集成 E95-F315) 同一等級 (杉集成 E65-F225 RW集成 E105-F300) 対称異等級
	床板	構造用合板 t=24 (釘打ち N75@150以下)
／	鋼製火打ち	木製火打ち 90×90 (米松KD材・無等級)

※軒梁から屋根面まで novopanSTP II t=9 張りとする
釘ピッチ等は耐力壁仕様と同様とする
※ 特記なき柱(束)には CPを取付けること。

※部材断面・材料強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する

横架材端部接合物	※下記耐力と同等以上の金物も使用可能	引張耐力
(A)	腰掛け金、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト、又は、短冊金物	10.0
(B)	腰掛け金、もしくは、大入れ蟻掛け+羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2	15.0
(C)	ホームプレート(同等品)×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×2	20.0
(D)	ホームプレート(同等品)×2、もしくは、ステア羽子板ボルト×3	25.0
(Z)	梁受け金物もしくは上部:大入れ、下部:蟻掛け加工+羽子板ボルト	

※特記無き限り (A)



特記なき箇所: 3.5寸勾配(転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
火打負担面積2.50㎡以下
取り付く梁成150以上 :せん断耐力1.18KN/m

①: 3.5寸勾配(転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
※火打ちあり区画でも区画内に継手があれば、せん断耐力1.37KN/m

②: 3.5寸勾配(転び止めなし) 構造用合板厚12mm
垂木45×60@455 :せん断耐力1.37KN/m
床合板仕様 構造用合板24mm
4周釘打ち N75@150 :せん断耐力7.84KN/m

※ 斜め部は床剪断耐力を0とする

※柱脚・柱頭金物の取り付け部材の樹種が、
同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種が確認すること
※()内の数値は軒桁上端からの寸法を示す

		施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
						訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	DRAWING TITLE 小屋伏図	SCALE S=1/50
DRAWING BY :						訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号		
DATE :						訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学		
						訂正日 H			

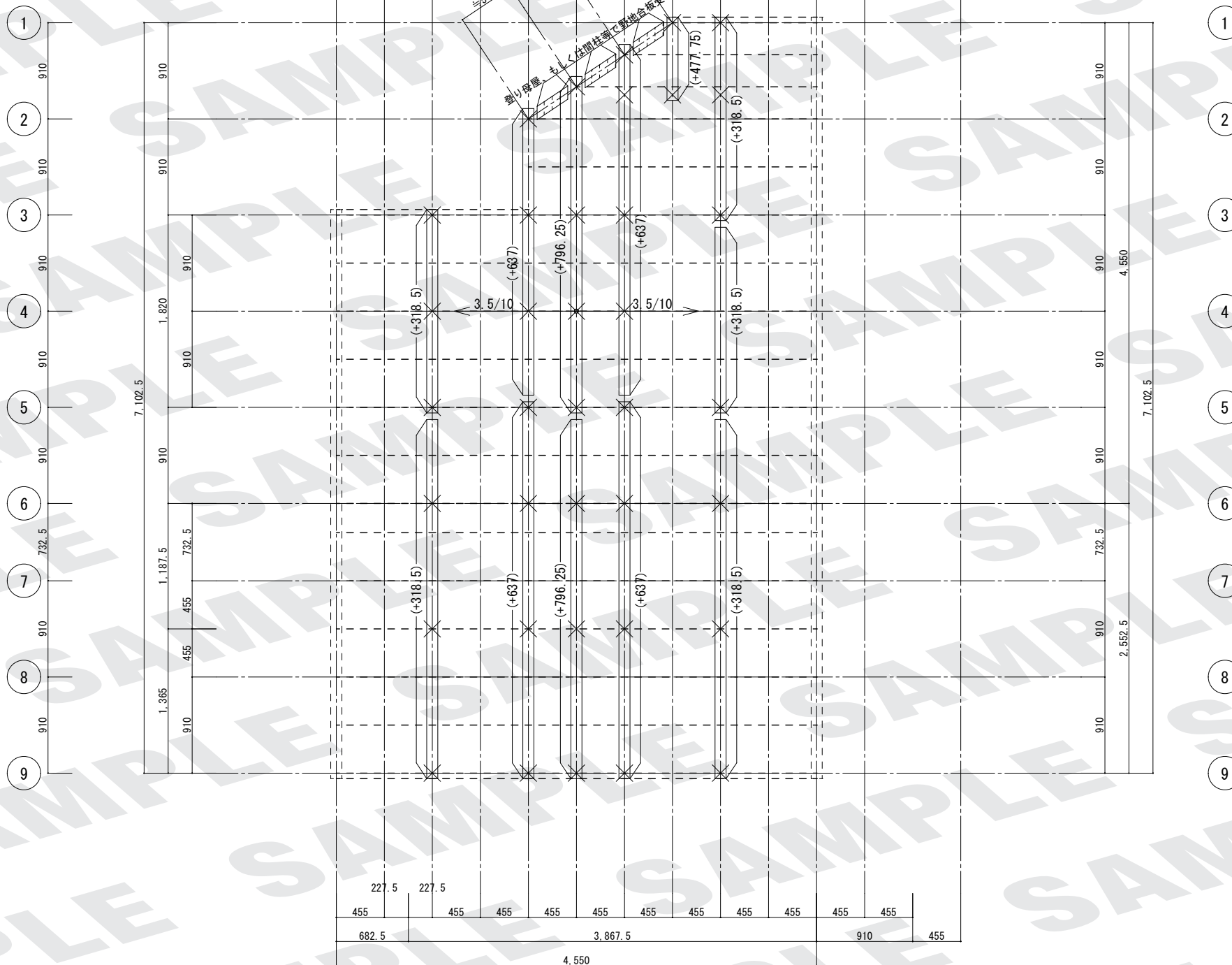
母屋伏図凡例

※特記無き限り下記による

記号	種類	
■	管柱 (PH階) (105×105)	(杉集成 E65-F255 トドマツ集成 F85-F300) 同一等級 (白松集成 E65-F255 トドマツ集成 E95-F315) 同一等級 米松集成 E135-F405 トドマツ集成 E75-F270 同一等級
×	(下階の束)	
105×()	棟木, 母屋, 隅木 登梁	特記なき梁は105×105とし樹種は(米桐, 米松, 桧, 杉)無等級材とする そのうち梁成150以上の材は米松KD無等級, (杉集成E65-F225 唐松集成E95-F270/E105-F300)対称異等級 (RW集成E105-F300 米松集成E120-F330)対称異等級 杉集成E65-F255 同一等級構成
---	垂木	特記無き垂木は 45×60 @455 (米桐, 米松, 桧, 赤松) 無等級材
	屋根野地板	構造用合板 t=12 (釘打ち N50@150以下)

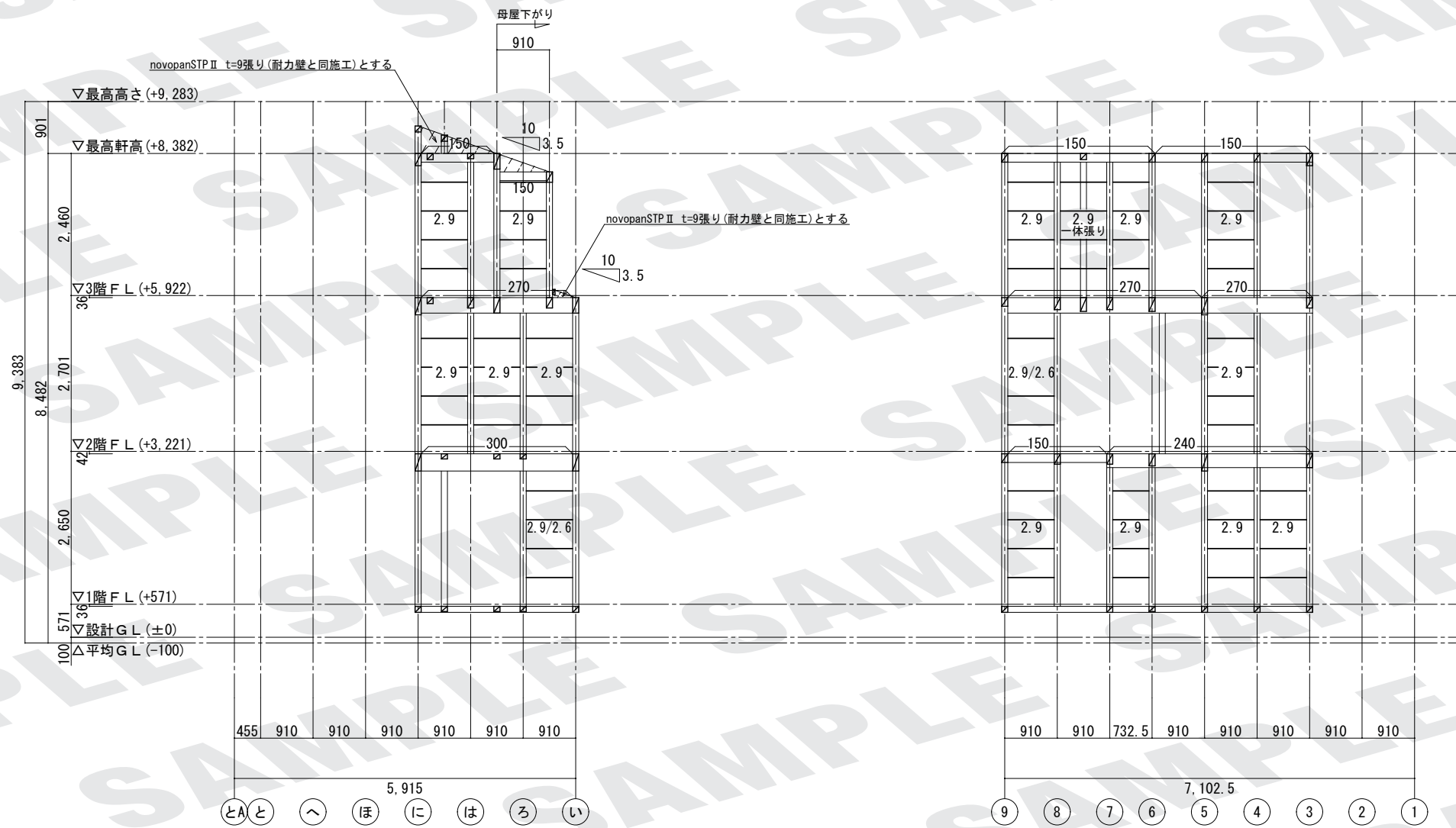
※部材断面・材料強度等の変更に関しては、安全側への変更を許容する

とA と へ ほ に は ろ い
455 910 910 910 910 910 910 910



※柱脚・柱頭金物の取り付く部材の樹種が、
同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種か確認すること
※()内の数値は軒桁上端からの寸法を示す

DRAWING BY :	DATE :	施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE		SHEET NO
								DRAWING TITLE	SCALE	
						訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所	母屋伏図	S=1/50	S-13
						訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号			
						訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学			



1 通り軸組図 S=1/100

とA 通り軸組図 S=1/100

記号	倍率	耐力壁の種類
	2.0	筋違(シングル) 45×90 柵 無等級材以上の基準強度を要する
	4.0	筋違(タスキ) 45×90 柵 無等級材以上の基準強度を要する
	2.9	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り大壁仕様 (FRM-0177)
	3.0	novopanSTP II 厚9.0mm 直張り床勝仕様 (FRM-0242)
	2.6	novopanSTP II 厚9.0mm 受材真壁・受材床勝仕様 (FRM-0179)

※novopanSTP II の釘はN50又はCN50とし、外周@100mm、内周@200mmとする。
 ※併用する場合は、上記倍率を加算する。
 ※一般壁(非耐力壁)の釘は 外周は@200、内周@300とする

特記なき事項は下記による

土台:	伏図による	耐力壁:	novopanSTP II t=9mm
管柱:	伏図による	釘打方法:	耐力壁はN50又はCN50とし、外周@100mm、 中通@200mmとする。
梁:	105×105~ 樹種: レッドウッド集成材 (E105-F300) 米松集成材 米松集成 E120-F330 対称異等級構成材	柱ホゾ寸法:	標準 3.0cm×9.0cm、一部 3.0cm×3.0cm
母屋:	105×105~ 樹種: 伏図による	有効細長比 (各階最大)	3階: λ = 81.063 2階: λ = 89.004 1階: λ = 87.324

※杉 無等級材より基準強度が劣る材(構造材以外も含む)を用いる場合は以下に注意すること
 金物が同等認定品、性能試験済、性能認定品等に適合する樹種が確認すること(耐力壁の認定も含む)
 杉 無等級材より基準強度が劣る材では安全性を確保出来ない可能性があります

施主承諾	営業	設計	工事	訂正図面作成日	MEMO	PROJECT TITLE	SHEET NO
				訂正日 H	構造設計者 ダイガク二級建築士事務所		S-14
				訂正日 H	二級建築士事務所埼玉県知事登録第(2)11349号	DRAWING TITLE	
				訂正日 H	二級建築士茨城県知事登録第12317号 大槻 学	軸組図	
				訂正日 H		SCALE S=1/100	